

大宅文庫ニユース

(題字 大宅 昌)

第83号

2014年7月15日発行

■

発行所

公益財団法人大宅社一文庫

理事長 枝廣映子

東京都世田谷区八幡山3-10-20

〒156-0056

電話03-3303-2000

<http://www.oya-bunko.or.jp/>

時間と費用を要して上梓した本もそうそう版を重ねることはない。それでも良質の作品を生み出すことによって困難を跳ね返さんとする。それが業界の慣わしであり默契であった。そんな志をもつた先達や同世代の書き手たちが何人かいたし、私もまたそんな一人でありたいと思続けてきた。

大宅賞に雑誌部門が設けられたのは、雑誌の活性化をはかりたいとする意図があるのだろう。併せて、書き手たちへの励みになればという出版社サイドから差し伸べられた応援歌であるとも思う。

雑誌部門の第一回の選考会を終えた印象では、ノンフィクションとしての作品性を重視すべきなのか、雑誌ジャーナリズムらしいスクープ性を買うべきなのか、選考委員の間でも迷いがあつたようになるが、回を重ねるうちに選考基準もクリアになっていくだろう。この新しい部門が、若い書き手たちと雑誌編集者たちへの励みと刺激の一助となつていつてくれるることを願う。

(ノンフィクション作家)

略歴

(ごとう まさはる)

一九四六年京都府生まれ。

京都大学農学部卒業。『空白の軌跡』心臓移植に賭けた男たち』で潮ノンフィクション賞、『リターン』で講談社ノンフィクション賞、『リング』で大宅社ノンフィクション賞、『清

ンマッチ』で大宅社ノンフィクション賞、『清』で詩人茨木のり子の肖像』で桑原武夫学芸賞を受賞。近著に『節義のために』『奇蹟の画家』など。昨年、心に残る十八のノンフィクションをセレクトした『探訪名ノンフィクション』を刊行した。

今年より大宅社一ノンフィクション賞が改組された。従来の単行本部門に加えて雑誌部門が新設されたことである。雑誌部門の選考委員の一人をおおせつかった。果たして適任であろうかと思いつつ、世の回り持ちであるうし、ノンフィクション界に少しでも恩返しができればと思って引き受けさせてもらった。

私事になるが、大宅賞にはいささか思い出がある。まずは幾度か落選したことである。

かつて、拙著『人工心臓に挑む』『遠いリング』『私だけの勲章』『甦る鼓動』が候補作となつたが、受賞には至らなかつた。四度以上落選というのは他にもおられようが、『落選慣れ』していつて、「力足らずで……』という落選の弁も結構慣れていつたように記憶する。

別段、賞にこだわる方ではなくて、すぐに忘れていたが、講談社の担当編集者であつた立脇宏さんがいつも私以上に残念がつてくれた。

この間、ノンフィクションを取り巻く環境はかなり厳しくなつてゐる。有力雑誌が相次いで休刊し、発表の場も限られてきた。出版社も余裕を失つてきたのだろう、若い書き手を育していくという美風も薄れてきたように思える。

ノンフィクション冬の時代——ともいわれるが、よくよく振り返つてみれば、もともと文芸の片隅にある地味な領域であり、ヌクヌクとした世界ではなかつた。

受賞記念
エッセイ

第四十五回 大宅社一ノンフィクション賞

書籍部門 佐々木実
雑誌部門 神山典士と

週刊文春取材班

『市場と権力 「改革」に憑かれた経済学者の肖像』
ゴーストライター懲悔実名告白』

本年四月三日、第四十五回大宅社一ノンフィクション賞選考委員会（公益財團法人日本文学振興会）が、公益社団法人日本外国特派員協会で開かれました。

今回より【書籍部門】と【雑誌部門】で選考が行われ、選考委員も新たになりました。【書籍部門】は梯久美子、片山杜秀、佐藤優、【雑誌部門】は奥野修司、後藤正治、エリック・タルマジの全選考委員（五十音順）出席のもと、平成二十五年中に刊行された書籍の中から、【書籍部門】佐々木実『市場と権力「改革」に憑かれた経済学者の肖像』（講談社刊）を、平成二十五年一月～二十六年二月号をもつて廃刊となりました。この事実は、私にとつ

月中に雑誌に掲載された署名記事の中から、【雑誌部門】神山典士と週刊文春取材班『全聾の作曲家はペテン師だった！ ゴーストライター懲悔実名告白』（週刊文春二〇一四年二月十三日号）を受賞作品としてそれぞれ決定した。賞は両部門とも個人の筆者に贈られる。（正賞 百万円、副賞 日本航空による国際線往復航空券）

贈呈式は六月二十日、東京・有楽町の日本外国特派員協会で行われた。

大宅社一ノンフィクション賞受賞の佐々木実、神山典士の両氏に受賞記念エッセイをご寄稿いただいた。（写真は日本文学振興会のご協力による）

本書で描かれる竹中平蔵の人物像は「不誠実」で「強引」だ。筆者は掲載誌の休刊にも拘らず取材を続け、竹中の幼少期から、経済学者となり、政治の表舞台での活躍までを綴る。その随所に彼がどういう人物なのかを見ることができる。

◆作品紹介◆ 【書籍部門】
佐々木実『市場と権力』

終わりと始まり

佐々木実

「市場と権力」「改革」に憑かれた経済学者の肖像

は、政治家・経済学者・企業経営者の顔をあわせもつ竹中平蔵氏の半生を追い、なく姿を消してしまったことは事件でした。

とりわけノンフィクションという文芸に携わるものにとって同誌は大きな舞台だつただけに、衝撃も大きかった。寄稿していた執筆者の有志たちが「月刊現代」休刊とジャーナリズムの未来を考える会」を立ち上げたとき、私も事務局のひとりとして参加しました。

その後シンクタンクという、経済学を政治に売り込み換金する装置を使い、いよいよ小泉政権で「改革」の旗手となる。「総理の意向」

「市場と権力」「改革」に憑かれた経済学者の肖像

は、政治家・経済学者・企業経営者の顔をあわせもつ竹中平蔵氏の半生を追い、なく姿を消してしまったことは事件でした。

とりわけノンフィクションという文芸に携わるものにとって同誌は大きな舞台だつただけに、衝撃も大きかった。寄稿していた執筆者の有志たちが「月刊現代」休刊とジャーナ

リズムの未来を考える会」を立ち上げたとき、私も事務局のひとりとして参加しました。この有志の会では「月刊現代」に寄稿して



© 同刊ケジダイ

日本には社会に起きた事件はせず、書けませ、一遍の読み物に仕立て上げたものを、ノンフィクションと呼んでいただけである。』

いた方々に執筆を依頼し、「現代と私たち」という小冊子を発行しました。シンポジウムも開催しました。事務局での作業を通じて、私はノンフィクションという表現ジャンルに対するさまざまな思いや考えを知ることとなりました。「月刊現代」廃刊をノンフィクション退潮の証しと受け取る人が少なくないなかで、「ノンフィクションとはなにか」ということを私自身立ち止まって考えざるをえませんでした。

田 靖春たちの登場をもつて「嚆矢」とするということなのでしょう。もちろん「ノンフィクション」をどうとらえるのかという解釈の違いもあるでしょうが、ノンフィクション界の歴史はおどろくほど浅いものなのかもしません。

「月刊現代」廃刊のあとも、大御所と呼ばれるノンフィクション作家が不祥事を起こして惨めに退場していくなどノンフィクション界の衰退はとどまるところを知らない。最も見えます。けれども、「ノンフィクションの危機が叫ばれて久しい」などと深刻ぶつてみせたところで、そもそもノンフィクション界などというたいそうなものはなかつたのだし、せいぜい拗ね者の集まりぐらいに考えれば、危機もへつたくろもないではないか。

そう突き放してみれば、気持ちも少しは晴れようというものです。「市場と権力」は遅ればせながらのデビュー作ですが、少なくとも私にとつてノンフィクションはたつたいま
始まつたばかりです。

本書で明らかにされた事実から、私たちは考えさせられる。「不誠実」で「強引」に「必要のない」「郵政民営化」を実現させた最大の功労者、「価値判断」を扱わない経済学をテクノロジーと割り切る「学者」の語る言葉。そんな人物が作る「政策」を、いかに受け止めるのかを。

書籍部門

受賞作以外の候補作は次の二篇だつた。

清水瀬「殺人犯はそこにはいる。陽面された北関東連続幼女誘拐殺人事件」（新朝社刊）

鷺田康『10・8 巨人 vs. 中日 史上最高の決戦』(文藝春秋刊)

◆作品紹介◆【雑誌部門】

神山典士『全聾の作曲家はペテン師だった!』

「現代のベートーベン」と呼ばれ、広島生まれの被爆二世で全聾の作曲家として一躍有名になりました。

名になつた佐村河内守

IMA』や、東日本大震災の被災地へ贈る鎮魂歌『ピアノのためのレクイエム』、その創

雑誌と読者、二人の師

神山典士

大学を卒業するときに考えたのは、「風のように生きられる仕事はないだろうか?」ということだった。二十一歳、大学三年目の一年間、当時の西ヨーロッパをうろつき、気の向くままの旅暮らしを体験して以来、自分には一点に定着した生活は難しいのではないかという思いがあった。気分はアラン・ラッド主演の『シェーン』だ。ある日ふらりと街にやってきた男がそこで起る難問を解決して、ふたびいざともなく去っていく――。

そんななかっこいい人生があるはずはないが、誰か(あるいは事件)とどこかで出会つて興味を持ち、その人となりを調べ生活の裏側を覗き込んで文章に紡ぎ、最後の句読点を打つたら一晩酒を酌み交わし、翌日はまた次の場所次のテーマに向かつて歩き始める――。そんな生活ができたらどんなに楽しいだろうと夢想したことが、この仕事を始めるきっかけだつたことは間違いない。

もちろん現実のシェーンは厳しかった。書きたくても書く場所はないし、書こうとするテーマにだつてそうそう会えるわけではない。先輩に相談すると「そんなのもうとつくに××が書いてるよ」「そんなテーマ読みたい読者がいるか?」と罵倒されるばかり。最初に入った編集部ではテレビの番組表ばかりを書いていたし、取材に行つたテレビ局ではディレクターに「この番組のタイトルはこれ

作の過程を紹介した「NHKスペシャル魂の旋律」(音を失つた作曲家)が放送されて反響を呼び、それから生まれた『鎮魂のソナタ』も十万枚の売り上げを記録している。

「でいきましょ」なんてこちらから提案して、採用されると喜んでいたりした。

卒業して三年目に予定通りフリーランスになつて「風」が吹くのを待つてみたが、私の周囲だけは「風」ばかり。そんなとき、唯一の味方は雑誌だった。酒場で出会つたり、新人賞に応募したことで知り合つたりした編集者たちに無数のテーマを出して、その中の一つ二つが「採用」になるとムキになつて取材に出かけていく。もちろん「八幡山」は定期券を買っていいほど通つたし、索引目録に自分の作品を見つけるひそかな喜びも、あの当時知つたものだつた。

もつとも厳しかつたのは読者だ。自分の著書が書店に並ぶようになつても、「よかつた、つまらなかつた」と言つてくれるのは親族ばかり。一度大阪の書店が何を血迷つたか拙書『初代総料理長サリー・ワイル』を店頭一面に四百冊飾つてくれたことがあつたのだけれど、喜びいさんで東京からかけつけて半日店頭に佇んでみてもほとんどの人は無視。スル

1. 興味なし。人さまの財布を文章の力で開かせるのは本当に大変なことなの



雑誌部門

受賞作以外の候補作は次の四篇だつた。

黒川祥子「鎖―なぜ生活保護は受け継がれるのか」(『g2』 vol. 14), 小林泰明「死刑のための殺人」(『新潮45』二〇一三年六月号)、田中博「米太平洋軍が傍受した張成沢肅清の内幕」(『文藝春秋』一四年三月号)、安田浩一「中国・韓国『ネット愛國者』を訪ねて」(『g2』 vol. 12)

だと、しみじみと勉強できたことだけが収穫の大阪の街だった。

だから今回、たまたま出会った「事件」ではあったが、毎週締め切りがあつて、発売前日の見本が出た瞬間に他メディアが騒ぎだし、発売日には飛ぶように店頭から雑誌が売れていくシーンを目にした時は実に嬉しかった。毎回読者の反応を見た上で次のテーマを決めて取材に走る。読者と呼吸をあわせながら書いていける。そんな雑誌の醍醐味を、存分に味わうことができた。

雑誌と読者。育ててもらつた二人の師に、今回のことでかろうじて恩返しできただろうか。もしそうだとするなら、書き手としてこんな冥利なことはない。

もちろん今も、風のような自由はない。シェーンほどかっこよくもない。けれど私は二人の師がいる。そのことを忘れずに、次のテーマに向かいたいと思っている。

略歴（こうやま のりお）一九六〇年埼玉県入間市生まれ。八四年信州大学人文学部心理学科を卒業、同年編集プロダクションISプレス入社。八七年フリーランスライターとして独立。九〇年株式会社バザール設立。九六年『ライオンの夢 コンデ・コマ』前田光世伝で第三回小学館ノンフィクション大賞優秀賞受賞。ピアノはともだち 奇跡のピアニスト辻井伸行の秘密』が二〇一二年度青少年読書感想文全国コンクール課題図書に選定された。

著書に『みづくん光のヴァイオリン』（俊成出版社）、『めさせー給食甲子園』（講談社）などがある。

「田中角栄研究」関連索引紹介

- ・意外！田中首相が三福に完勝した7月政変の内幕
週刊現代 1974.8.22
- ・田中角栄研究 その金脈と人脈
文藝春秋 1974.11
- ・対談 事実と論理だけで作ったぼくの「角栄研究」（イーデス・ハンソン／立花隆）
週刊文春 1974.11.25
- ・田中角栄退陣「田中角栄研究」の内幕
文藝春秋 1975.1
- ・「文藝春秋」（田中角栄研究号）神田古本屋街で5000円也の高値
宝石 1975.1
- ・「田中角栄研究」ファミリーの心臓部、新星企業金脈商法の疑惑をついに追いつめた！
現代 1975.7
- ・新・田中角栄研究
文藝春秋 1976.9
- ・対談 ウォーターゲート・金脈・ジャーナリズム（B・ウッドワード／立花隆）
諸君！ 1977.8
- ・田中角栄新金脈追及
週刊朝日 1982.1.22～7.16
- ・再開・田中角栄新金脈追及
週刊朝日 1984.7.27～11.2
- ・戦後50大事件の目撃者「田中金脈追及」取材グループ・メモ（小林峻一）
文藝春秋 1995.1

大宅賞雑誌部門新設運動企画 「田中角栄研究」発表から40年

立花隆「田中角栄研究 その金脈と人脈」は、一九七四（昭和四十九）年十月十日に発売された『文藝春秋』十一月号で発表された。

時の首相の、金脈の構造と実態を伝えるこのレポートの発表からひと月半後の十一月二十六日、首相は退陣を表明して田中政権は倒れた。

一篇の雑誌記事が首相を退陣に追い込んだことで「田中角栄研究」が世間に与えたインパクトは大きい。歴史を振り返る際には必ず取り上げられる作品であろう。

当時『文藝春秋』十一月号は入手困難となり、一時神田の古書店で五千円の値が付いていたそうだが、このレポートが一冊の書籍『田中角

栄研究 全記録』（講談社）にまとまつたのは発表から二年後のことだった。

雑誌ジャーナリズムの特徴は、書籍にはない速報性と、新聞報道では時間的に間に合わない周辺を掘り下げた取材にある。また新聞には長すぎ、書籍にするには短すぎる分量の記事を掲載できる簡潔性もある。

今回の大宅賞【雑誌部門】受賞作が引き起こした反響（当事者の記者会見も含め）はすでに第一報を上まわり、書籍にまとめる頃には初期のインパクトは薄らいでいるだろう。【書籍部門】受賞作もまた、当初の発表媒体を休刊で失っている。

いずれも雑誌ジャーナリズムとは何かについて考えさせられる受賞作である。雑誌冬の時代といわれるが、雑誌ジャーナリズムの存在価値はまだまだ失われていない。

人名索引件数ランキング

嵐のメンバーが上位を独占！
アベノミクス・安倍晋三首相がランク再登場！

Kiss-My-Ft2の玉森裕太（十一一位）やSexy Zoneの中島健人（十五位）など、新興ジャニーズも上位に登場している。政界のトップは、アベノミクスで日本経済の復興を目指す安倍晋三内閣総理大臣が九位。昨年三位だった「日本維新の会」の橋下徹（十三位）を抑え、索引件数でも強さを見せた。

約四〇〇誌から採録している大宅壮一文庫雑誌記事索引より、人物記事の件数順位を紹介する「人名索引件数ランキング」。二〇一三年の年間順位と一四年六月現在での総合順位それぞれ三〇位までを下記に示した。今回は一四年上半期の上位二〇名についても紹介する。

総合ランディングの順位に大きな変動はないが、〇九年以降毎年ランキング上位を占めるアイドルグループAKB48が総合三〇位にランクインしてきた。

人名索引総合ランキング

() 内は前年順位、(ー) は前年100位以下

1 (1)	松田聖子（歌手）	4,907 件
2 (2)	小沢一郎（政治家）	4,827 件
3 (3)	長嶋茂雄（野球）	4,044 件
4 (4)	雅子皇太子妃	3,746 件
5 (5)	田中角栄（政治家）	3,400 件
6 (6)	皇太子（浩宮）	3,304 件
7 (7)	三浦百恵（歌手、山口百恵）	2,976 件
8 (8)	昭和天皇	2,685 件
9 (10)	ビートたけし（タレント）	2,666 件
10 (9)	中曾根康弘（政治家）	2,662 件
11 (13)	木村拓哉（S M A P）	2,629 件
12 (11)	貴乃花光司（相撲）	2,594 件
13 (12)	今上天皇	2,587 件
14 (15)	松井秀喜（野球）	2,543 件
15 (14)	石原慎太郎（政治家、作家）	2,518 件
16 (17)	イチロー（野球）	2,389 件
17 (16)	宮沢りえ（女優）	2,367 件
18 (18)	中森明菜（歌手）	2,311 件
19 (19)	清原和博（野球）	2,291 件
20 (20)	王貞治（野球）	2,265 件
21 (21)	ダイアナ妃（元キャリス皇太子妃）	2,052 件
22 (22)	田中真紀子（政治家）	2,043 件
23 (26)	美智子皇后	1,958 件
24 (23)	江川卓（野球）	1,957 件
25 (24)	美空ひばり（歌手）	1,949 件
26 (27)	小泉純一郎（政治家）	1,923 件
27 (25)	郷ひろみ（歌手）	1,918 件
28 (28)	原辰徳（野球）	1,798 件
29 (29)	中田英寿（サッカー）	1,778 件
30 (41)	AKB 48（タレント）	1,723 件

2013年人名索引ランキング

1 (9) 櫻井翔 (嵐)	387 件
2 (7) 相葉雅紀 (嵐)	357 件
3 (10) 二宮和也 (嵐)	347 件
4 (1) 大島優子 (AKB 48)	346 件
5 (8) 松本潤 (嵐)	331 件
6 (6) 大野智 (嵐)	308 件
7 (4) AKB 48 (タレント)	296 件
8 (11) 嵐 (タレント)	249 件
9 (19) 安倍晋三 (政治家)	241 件
10 (17) 雅子皇太子妃	228 件
11 (-) 玉森裕太 (Kis-My-Ft2)	219 件
12 (53) 壇蜜 (タレント)	218 件
13 (3) 橋下徹 (政治家, 弁護士)	216 件
14 (30) Kis-My-Ft2 (タレント)	149 件
15 (-) 中島健人 (Sexy Zone)	142 件
16 (34) 大谷翔平 (野球)	139 件
17 (45) 松井秀喜 (野球)	136 件
18 (-) 錦戸亮 (関ジャニ 8)	132 件
18 (-) みのもんた (アナウンサー)	132 件
20 (16) SKE 48 (タレント)	130 件
20 (-) 田中将大 (野球)	130 件
22 (-) 亀梨和也 (KAT-TUN)	121 件
23 (-) 中居正広 (SMAP)	119 件
24 (-) 猪瀬直樹 (作家, 政治家)	117 件
25 (32) ももいろクローバーZ (タレント)	111 件
26 (20) 木村拓哉 (SMAP)	110 件
27 (-) 小泉進次郎 (政治家)	109 件
28 (-) 能年玲奈 (女優)	107 件
29 (-) 草彅剛 (SMAP)	104 件
30 (52) 綾瀬はるか (女優)	102 件

2013年“連載”ランキング

1	佐藤優（作家、元外務省）	275 件
2	A K B 4 8（タレント）	169 件
3	林真理子（作家、エッセイスト）	146 件
4	伊集院静（作家）	145 件
5	福田和也（文芸評論家）	134 件
6	ピートたけし（タレント）	108 件
6	みうらじゅん（漫画家）	108 件
8	古賀茂明（元経済産業省）	106 件
9	平松洋子（エッセイスト）	103 件
10	宮藤官九郎（脚本家、大人計画）	99 件
10	室井佑月（作家）	99 件
12	椎名誠（作家、エッセイスト）	92 件
13	堀江貴文（元ライブドア）	91 件
14	福岡伸一（分子細胞生物学）	81 件
15	大竹聰（編集者、ライター）	80 件
16	酒井順子（エッセイスト）	79 件
17	西村博之（2ちゃんねる）	75 件
18	S K E 4 8（タレント）	74 件
19	坪内祐三（評論家）	73 件
19	爆笑問題（タレント）	73 件
21	川上未映子（作家、歌手）	71 件
21	松崎菊也（ニュースペーパー）	71 件
23	南雲吉則（医者）	70 件
24	井筒和幸（映画監督）	68 件
24	穂村弘（歌人）	68 件
26	佐高信（評論家）	67 件
27	中村うさぎ（作家）	66 件
27	ヤマザキマリ（漫画家）	66 件
29	安部謙二（作家）	65 件
30	江原啓之（霊能者）	64 件

総合 “連載” ランキング

1	林真理子（作家、エッセイスト）	2,666 件
2	福田和也（文芸評論家）	2,295 件
3	佐藤優（作家、元外務省）	2,106 件
4	テリー伊藤（演出家、タレント）	2,015 件
5	椎名誠（作家、エッセイスト）	1,909 件
6	伊集院静（作家）	1,516 件
7	坪内祐三（評論家）	1,346 件
8	ピートたけし（タレント）	1,336 件
9	中野翠（エッセイスト）	1,240 件
10	嵐山光三郎（エッセイスト、作家）	1,225 件
11	爆笑問題（タレント）	1,209 件
12	佐高信（評論家）	1,177 件
13	曾野綾子（作家）	1,156 件
13	室井佑月（作家）	1,156 件
15	安部謙二（作家）	1,068 件
16	中村うさぎ（作家）	1,052 件
17	山田美保子（コラムニスト）	1,050 件
18	内館牧子（脚本家、作家）	1,016 件
19	酒井順子（エッセイスト）	997 件
20	鴻上尚史（劇作家、演出家）	910 件

※大宅文庫で採録している約400誌から「連載」のみカウントした延べ件数。1988年以前の目録収録データはカウントしていません。

芸能界ではエロスマニアの女王・壇蜜が二十二位。N H K連続テレビ小説『あまちゃん』のヒロイン・天野アキ役でブレイクした能年玲奈が二十八位に急上昇。スポーツ界では「二刀流」挑戦のルーキー・大谷翔平が十六位。恩師・長嶋茂雄とともに国民栄誉賞をW受賞した松井秀喜は十七位。一六一億円契約でNYヤンキースに移籍した「負けない男」田中将大は二〇位に。二〇一四年上半期ランキングの一位は二宮和也。二位以下も嵐（十一位）のメンバーが上位を独占した。

政界では猪瀬直樹（二十位）辞任後の東京都知事選で、「原発ゼロ」を掲げ出馬した細川護熙が九位、細川氏を支援した小泉純一郎が十二位と元首相コンビが気を吐いた。その

都知事選で当選した舛添要一元厚生労働相が二十位にランク入りした。

二月に開催された冬季五輪ソチ大会で、フリーアイ自己ベストを更新した浅田真央が七位に日本男子初の金メダルを獲得した羽生結弦が十三位にランクインと、男女ともフィギュアスケートがスポーツ界のトップとなつた。

一方、STAP細胞騒動で一躍時の人となつた小保方晴子博士が十位。ゴーストライター騒動で、「全聾の作曲家」の仮面が剥がれた佐村河内守が十六位にランクインした。

今回は特別企画として、連載記事のみのランキングを作成した。人名索引ランディングは連載記事を除いた件数を集計している。

総合ランキングでは林真理子、昨年一年間では佐藤優が一位であつた。特筆すべきはA

2014年上半期人名索引ランキン

文庫の近況

【ご寄付のお申込み・お問合せ】

総務課寄付係

電話 03-3306-4661

メール kifu@oya-bunko.or.jp

【振込み口座】

ゆうちょ銀行〇〇八(ややかわ)支店

普通口座 9968661

口座名 公益財団法人大宅社一文庫

□雑誌図書館運営費「寄付のお願い」
 大宅社一文庫は創立以来四十年余、明治から現在までの約百五十年分の雑誌およそ一万種類七十五万冊を所蔵し提供するとともに、独自の雑誌記事索引データベースを構築し、広く国内外で活用されています。
 しかし雑誌の出納や索引採録にかかる人件費等のコストや書庫増改築費のほか、データベースには五年ごとに一億円超の設備投資と年間二千万円超の保守費と、相当額の運営費がかかります。そのためにも皆様からの温かいご支援が是非とも必要です。さしあげます。

何卒、ご理解とご賛同をいただき、格別のご支援を賜りますようお願い申上します。

〔平成二十五年度寄付者・芳名〕

小笠房一様
阪本博志様

他一名の方よりご寄付いただきました。誠にありがとうございました。

大宅社一文庫は創立以来四十年余、明治から現在までの約百五十年分の雑誌および書庫増改築費のほか、データベースには五年ごとに一億円超の設備投資と年間二千万円超の保守費と、相当額の運営費がかかります。そのためにも皆様からの温かいご支援が是非とも必要です。さしあげます。

何卒、ご理解とご賛同をいただき、格別のご支援を賜りますようお願い申上します。

しかし雑誌の出納や索引採録にかかる人件費等のコストや書庫増改築費のほか、データベースには五年ごとに一億円超の設備投資と年間二千万円超の保守費と、相当額の運営費がかかります。そのためにも皆様からの温かいご支援が是非とも必要です。さしあげます。

何卒、ご理解とご賛同をいただき、格別のご支援を賜りますようお願い申上します。

□雑誌図書館運営費「寄付のお願い」
 大宅社一文庫は創立以来四十年余、明治から現在までの約百五十年分の雑誌および書庫増改築費のほか、データベースには五年ごとに一億円超の設備投資と年間二千万円超の保守費と、相当額の運営費がかかります。そのためにも皆様からの温かいご支援が是非とも必要です。さしあげます。

何卒、ご理解とご賛同をいただき、格別のご支援を賜りますようお願い申上します。

□消費税引き上げに伴う 利用料金改定のお知らせ

本年四月の消費税率改定（5%から8%に引き上げ）にともない、利用料金を改定いたしました。一部の料金は据え置きや値下げをしております。

詳細はホームページの「利用料金改定のお知らせ」をご覧ください。
 一般利用（贊助会員以外の方）
 入館料 三〇〇円（据え置き）
 再入館料 一〇〇円（据え置き）
 白黒コピー料金 一枚 五二円
 カラーコピー料金 一枚 一二三円
 贊助会員（個人会員の方）
 白黒コピー料金 一枚 四一円
 カラーコピー料金 一枚 一〇三円
 ファクシミリサービス
 資料代 一枚 三〇九円
 索引プリント代 一枚 二〇円
 送信手数料 一件 三〇九円
 ※学生利用料金は据え置きました。

※学生利用料金は据え置きました。
 その他料金
 (一〇〇円から値下げしました)
 ※贊助会費は非課税です。利用料金は消費税8%を含んだ税込額です。

□来館資料代会計についてお知らせ
 本年四月より、来館利用でのコピー代と撮影料は、合計額より一円単位を切り捨てて値引きしています。

□Web OYA-bunko会員版
 個人会員向け料金改定（値下げ）

本年四月一日から、Web OYA

—bunko会員版の個人会員向け利用料金を左記の通り値下げしました。

索引表示料金 一件一八円→一〇円

また、オンライン受付複写サービスを提供するとともに、独自の雑誌記事索引データベースを構築し、広く国内外で活用されています。

詳しくはホームページの「利用料金改定のお知らせ」をご覧ください。

一般利用（贊助会員以外の方）
 入館料 三〇〇円（据え置き）
 手数料 一申込に付き 三〇九円
 資料代 一枚 二六八円

（検索に限定）を実施中です。入会を

ご検討中の方のトライアルも歓迎いたします。詳しくはホームページまたはW eb管理室（担当・田中／北越）電話〇三一三三〇三一九九六八まで。

□公立図書館版W ebサービス
 利用がより便利になりました

す。九月二日（火）以降の開館は左記の通りです。

開館時間 毎週火曜日（祝日休館）午前十一時から午後四時まで開館（十二時から一時まで昼休み）

東京本館で越生分館所蔵雑誌・書籍を閲覧する場合、お取り寄せには数日かかりますのでご承下さい。

□ファクシミリサービスの営業日は左記の通りです。

□雑誌図書館運営費「寄付のお願い」
 大宅社一文庫は創立以来四十年余、明治から現在までの約百五十年分の雑誌および書庫増改築費のほか、データベースを構築し、広く国内外で活用されています。

しかし雑誌の出納や索引採録にかかる人件費等のコストや書庫増改築費のほか、データベースには五年ごとに一億円超の設備投資と年間二千万円超の保守費と、相当額の運営費がかかります。そのためにも皆様からの温かいご支援が是非とも必要です。さしあげます。

□雑誌図書館運営費「寄付のお願い」
 大宅社一文庫は創立以来四十年余、明治から現在までの約百五十年分の雑誌および書庫増改築費のほか、データベースを構築し、広く国内外で活用されています。

□消費税引き上げに伴う 利用料金改定のお知らせ

本年四月の消費税率改定（5%から8%に引き上げ）にともない、利用料金を改定いたしました。一部の料金は据え置きや値下げをしております。

詳細はホームページの「利用料金改定のお知らせ」をご覧ください。
 一般利用（贊助会員以外の方）
 入館料 三〇〇円（据え置き）
 再入館料 一〇〇円（据え置き）
 白黒コピー料金 一枚 五二円
 カラーコピー料金 一枚 一二三円
 質助会員（個人会員の方）
 再入館料 一〇〇円（据え置き）
 白黒コピー料金 一枚 五二円
 カラーコピー料金 一枚 一二三円
 資料代 一枚 三〇九円
 索引プリント代 一枚 二〇円
 送信手数料 一件 三〇九円
 ※学生利用料金は据え置きました。

※学生利用料金は据え置きました。
 その他料金
 (一〇〇円から値下げしました)
 ※贊助会費は非課税です。利用料金は消費税8%を含んだ税込額です。

□来館資料代会計についてお知らせ
 本年四月より、来館利用でのコピー代と撮影料は、合計額より一円単位を切り捨てて値引きしています。

□Web OYA-bunko会員版
 個人会員向け料金改定（値下げ）

本年四月一日から、Web OYA